

尾澤瑞樹

ピアノリサイタル

～ ドイツ音楽の夕べ～

Mizuki Ozawa Piano Recital

シューベルト：

楽興の時 D780より 第1番～第3番

Schubert: Moments Musicaux D780

ベートーヴェン：

ピアノソナタ 第23番 へ短調 op.57〔熱情〕

Beethoven: Piano Sonata no.23 op.57 "Appassionata"

シューマン：

子供の情景 op.15より

Schumann: Kinderszenen op.15

ブラームス：

ピアノソナタ 第1番 ハ長調 op.1

Brahms: Piano Sonata no.1 C major op.1

2025年 **3月19日** **水** 19:00開演 (18:30開場)

海老名市文化会館 小ホール (小田急・相鉄・JR [海老名] 駅徒歩6分)

～子どもたちに音楽会を～ このコンサートは小中学生のための特別料金をご用意しております

全自由席 一般：3,000円 / 学生 (高校生以上)：1,500円 / 小・中学生：500円

チケットのお求めは、海老名市文化会館窓口またはチケットぴあをご利用ください

チケットぴあ Pコード：291617 (右下のQRコードよりアクセスできます)

主催：尾澤瑞樹ピアノリサイタル実行委員会 後援：スガナミ楽器 東京藝術大学同声会

お問い合わせ：Email: ozawapiano-2023@yahoo.co.jp TEL:090-3537-0689



ドイツ音楽の作曲家たち

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770-1827)



ドイツのボンに生まれたベートーヴェン。「ジャジャジャーン」で知られる交響曲第5番をはじめ、数多くの名曲を残した音楽家です。彼の生きた時代は、フランス革命の真っただ中。社会構造の大きな変化とともに、芸術の分野でもまた、新しい音楽が求められるようになっていったのだと思います。そんな時代を生きたベートーヴェンの作品は、それまでの音楽技法や構造にさらに複雑さが加わり、それによって表現される音楽の世界は飛躍的に拡大されました。時に斬新なスタイルで作られた作品であっても、当時の革命的な意識の中では容易に受け入れられ、今日まで多くの人々に愛される偉大な業績を多数残しています。

フランツ・シューベルト (1797-1828)



オーストリアの作曲家シューベルトは、わずか31年の生涯で600曲以上のドイツ歌曲を作曲したことから「歌曲の王」と称されることもあります。ベートーヴェンの活躍した時期の後半とほぼ重なる時代を、同じウィーンで過ごしたにもかかわらず、ベートーヴェンは古典派、シューベルトはロマン派の草分け的存在と言われます。確かにシューベルトの基本的な作曲技法は古典派の影響を強く受けたものですが、短い動機を繰り返すベートーヴェンとは異なり、シューベルトは長い旋律を描くことを得意としています。彼の作る歌曲は、多くが抒情的な詩をもとに描かれており、そのピアノ伴奏の形も詩の内容を導く大きな役割を果たしています。こうした特徴も、シューベルトがロマン派とされる要素です。

ロベルト・シューマン (1810-1856)



シューベルトの13歳年下にあたるシューマン。同じ世代には、メンデルスゾーン、ショパン、リスト、ワーグナー、ヴェルディといった超有名音楽家が数多くいます。出版業を営む家庭に生まれたこともあり、幼いころから文学に親しんだシューマン。自ら詩を書くこともあったそうです。シューマンの作曲年は少し独特なところがあり、ピアノ作品のほとんどは若いころに書かれています。1840年には歌曲を多く書き残し、人生の後半は管弦楽曲や室内楽曲。いずれのジャンルでも彼の作品には、ある種の感情の起伏の豊かさを、音楽の美しさの中に混ぜ込ませる感性が発揮されています。美しい旋律はもとより、内声や低音部の動きにもこだわり、音であらわす詩のようなスタイルで、多くの名曲を残しました。

ヨハネス・ブラームス (1833-1897)



ドイツで生まれ、ピアノの名手として若いころから注目を浴びていたブラームス。作曲に専念してからは演奏活動をしていませんが、1859年と1881年に作られたピアノ協奏曲の初演は、彼自身がピアノを演奏しました。ブラームスは二十歳の頃、シューマンに弟子入りします。今回演奏するピアノソナタ第1番は、シューマンのもとを訪ねた際にブラームスが披露した作品です。ロマン派の流れの中に生きたブラームスですが、彼は古典的な作曲技法や形式美を重んじ、タイトルを持たない「絶対音楽」のスタイルを追求しました。非常に生真面目な性格だったことで知られており、楽譜のスケッチや初稿は放棄してしまうことがほとんど。そのため、作曲の過程を細かく知ることが難しいですが、何度も推敲を重ね作品を作り出していくスタイルは、当時から有名でした。有名な交響曲第1番はなんと20年もの歳月をかけて作曲されており、多くの人々を魅了し今日でも数多く演奏されています。

尾澤 瑞樹 *piano*

神奈川県出身。桐朋女子高等学校音楽科、東京芸術大学音楽学部を卒業。

これまでに、西田理志、加藤伸佳、村上弦一郎、吉畑由美子、大野真司、迫昭彦、P.ネルセン各氏に師事。E.リヒテル、V.メルジャーノフ、V.サハロフ、D.ヨッフエ、A.ヒサレフ、S.ドレンスキーなど、国外アーティストのマスタークラスを数多く受講。第23回PTNAピアノコンペティションG級・全国大会第3位、併せて審査員特別賞受賞。第8回千葉コンクールF部門・第1位、2014年いかるが音楽コンクールC2部門第1位などの受賞歴をもつ。

2004年より演奏活動を開始。ピアノソロでの演奏を中心に多くのコンサートに出演。

中でも、2015年から毎年開催される自らのソロリサイタルは回を重ねることに更新されていく彼の演奏が高く評価されている。「ピアノを通して様々な楽器の音色を想像したい」と自身が語るように、

時にオーケストラを思わせるダイナミックな響きを奏で、時に声楽的に歌い上げる。

作曲家の生きた時代を想い、伝統的な解釈と自らの感性を重ね合わせるその演奏スタイルは多くの聴衆を魅了している。芸術を通じた教育にも熱心で、後進の指導のほか、音楽鑑賞を主体とした地域活動やレクチャーなどにも参加。

